

ワークショップ概要

- 目的**
- ・ 設計者及びユニバーサルデザインの専門家と共に、市民がユニバーサルデザインについて考える機会とする。
 - ・ 市民が日頃感じている様々なバリアについて「自分ならどう感じるか」「どのような工夫ができるか」を考え、設計上の制約やその背景を知る。
 - ・ 設計者が市民の声を直接聞き、設計プロセスに反映する。

日時 2025年3月15日（土曜日）
会場 大宮ふれあい福祉センター
参加者 20名

当日の流れ

設計説明

（設計統括 仙田氏）
新庁舎整備計画の全体イメージを説明



ミニレクチャー

（高橋儀平先生）
ユニバーサルデザインの考え方
や事例を紹介



- ・ 自己紹介
- ・ 公共の建物のユニバーサルデザインに関する意見交換



全体共有・発表

グループでまとめた意見を全体で共有。



グループアクティビティ

理想のトイレを直観的にレイアウトできる「お手洗い福笑い」ボードを使い、「使いやすい」と感じるトイレのプランを意見交換。



施設内 点検ツアー

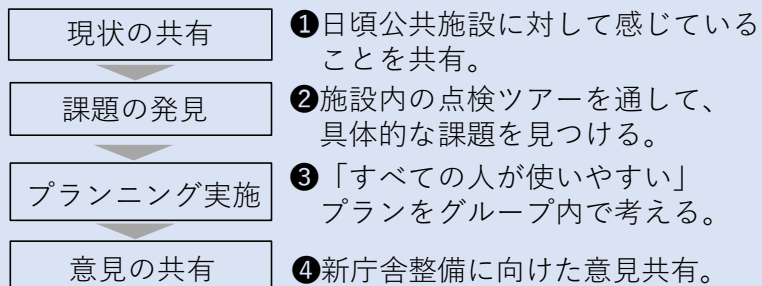
グループごとに施設を巡回し、ユニバーサルデザインの視点で設備や空間を点検。点検後は、気付いた点を点検ボードに書き込み、グループで意見を共有。



設計者がファシリテーターとなり、参加者は5つのグループに分かれてアクティビティを実施。



参加者からの意見聴取プロセス



まとめ

参加者の意見をもとに、設計に活かすべきポイントについての考察を以下にまとめました。

① 行動をうながす適切な情報提示

- ・ 視認性の向上: ビジュアルサインの強化（案内表示、トイレサインの明確化、見やすいボタンの色分け）
- ・ 入り口の分かりやすさ: 建物のエントランスやトイレの入り口の視認性向上
- ・ 音声ガイドの導入: 視覚障害者向けの情報提供手段
- ・ 目線の高さへの配慮: 大人・子供・車椅子利用者それぞれの視点を考慮した情報配置

② 人の活動にふさわしい空間の作られ方

- ・ 床仕上げ: 車椅子でも移動しやすく尚且つクッション性のある床材の検討
- ・ 空間寸法: 車椅子トイレでは設備の有無だけでなく、利用しやすい寸法を確保する
- ・ 壁・天井・吹き抜け: 開放感を持たせる設計が好ましい
- ・ ライティング: 明るさの確保と照明計画の最適化が必要
- ・ 階段・段差の配慮: 適切な段差処理設計の推進、必要な場所に適切な手すりの設置
- ・ 暗がりの改善: 安全面のための適切な照明配置

③ 活動を支える設備

- ・ 非常用ボタンの適切な配置: 視認性を確保しつつ、倒れた際にも押しやすい位置に設置
- ・ エレベーター利用者の満足度: 利用者は待ち時間や利便性から不満を感じやすい。
- ・ 扉の開閉スピードの調整: 全ての人が利用しやすい開閉速度の設定
- ・ 利き手の違いへの配慮: 便器、操作ボタン、手すりの配置位置の工夫

④ 生理的欲求に対応

- ・ 水飲み場の設置: 誰もが利用しやすい適切な場所に配置
- ・ ベンチの配置: 場所や個数も考慮し、休憩スペースを適切に確保

⑤ 設計初期段階でのUDワークショップの開催、意見交換の意義

「ユニバーサルデザインを実践する庁舎」を実現するためには、空間配置計画（ゾーニング）や動線計画、その後計画される仕上げ（詳細設計）などの設計業務の検討段階に合わせて検討を行っていくことの重要性を再認識しました。今回のワークショップで得られた意見をもとに、設計の初期段階からユニバーサルデザインに配慮することで、利用者の利便性の向上に繋がっていきます。

会場に用意した模型

素材を工夫した「さわれる」模型



当日配布した資料 きめ細かく参加者の意見を拾い上げるボード類

UD点検ボード⑤
公共施設のユニバーサルデザインについて

建物の説明動画
市庁舎の計画を模型と動画で紹介！

【お手洗い体験ボード】
自分の使いやすいものを教えてください
実際に体験のついでに意見を共有
・思ったよりいい、こうだったらいいなを
ディスカッション
・希望をかなえるスペシャルアイデアを共有

【みんなで囲む模型】
「ユニバーサルワークショップ進め方」
当日配布資料より抜粋

ユニバーサルデザインワークショップ
※このボードはワークショップの進め方に関するものです。会場内には他の参加者が自由に閲覧できます。

UD点検ボード⑥
加配を点検してみよう

UD点検ボード⑦
加配を点検してみよう

ユニバーサルデザインワークショップ
※このボードはワークショップの進め方に関するものです。会場内には他の参加者が自由に閲覧できます。